

公表

## 令和7年度 事業所における自己評価総括表

○事業所名	発達支援室kodomo戸塚（単位1）放課後等デイサービス		
○保護者評価実施期間	令和8年 1月 13日		～ 令和8年 1月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	26人	(回答者数) 20部
○従業者評価実施期間	令和7年 4月 1日		～ 令和8年 3月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9名	(回答者数) 9部
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 3月 17日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	保護者の方が安心して相談できる場所であること	保護者の方が相談しやすいように顔を合わせた際は出来るだけコミュニケーションをとるようにしている。電話相談や面談、学校訪問なども行いながら、お子さまにとって最善の支援が出来るように考えている。児童発達からの成育歴も踏まえ保護者へのエンパワメントの視点を忘れずに相談支援を行っている。	成長に伴う様々な困りごとに対応できるよう、スタッフそれぞれが特性や支援方法などの知識を学び、職員間で共有することで事業所全体のスキルアップを図っていく。保護者の気持ちに寄り添いながらご家庭と一丸となって支援に向かっていく姿勢を忘れないようにする。
2	お子さまが安心して通える場所であること	どのスタッフも温かな雰囲気でお子さまと接するよう心掛け、お子さまの気持ちに寄り添いながら、自信につながる声掛けを行っている。また、お子さまの話に耳を傾け、安心して気持ちを表現できる環境にしている。	お子さまの興味関心をくみ取りながら楽しく学べるようカリキュラム内容を工夫していく。SSTやグループワークと製作などのカリキュラムをバランスよく取り入れてメリハリをつけ、通所が楽しみになるような工夫をしていく。
3	活動の中で一人一人に合わせた対応をしていくこと	カリキュラムや個別学習の中で、お子さまの様子をよく観察し現在の困りごとを把握しながらお子さまそれぞれに合わせた支援を行っている。スタッフ間で同じ対応ができるよう情報共有をこまめに行っている。	個別支援計画に基づき、お子さまに合わせた療育をする視点を忘れず支援にあたっていく。学校や家庭を連携し、困りごとの背景や状況を把握しながら無理なく過ごせるように働きかけていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者の方との密なコミュニケーションが難しい。	全送迎のお子様が多いため児童発達支援の時のようにしっかりとフィードバックする時間が取れず、送迎時にも保護者の方とじっくり話せる時間が取れないことが多くなっている。	専門支援報告書等で日々の様子を伝えていく。送迎時に話す時間が取れない場合は、個別にお電話でご様子をお話させていただく等教室からも情報を発信し、保護者との連携を図っていきたい。
2	ペアレントトレーニングや保護者同士の交流など保護者支援が足りていない。	保護者にペアレントトレーニングなどをする為の職員のスキルが足りていない。また保護者同士で交流したり相談できる場が少ない。	法人の専門スタッフと連携したり研修を受け職員のスキル向上を図り、保護者の方がが必要としている情報を提供できるよう日々努めていく。保護者会開催と併せて、より気軽なお茶会のような交流の機会を作り、保護者同士のつながりの場を作っていく。
3	地域に開かれた事業所になること	事業所の中での活動が多く、地域との交流の機会がない。	地域のイベントなどに参加するカリキュラムを検討したり、戸外活動で交流の場を作っていく。他事業所とも連携していけるように働きかけていく。